

- トヨタ自動車、「カローラ」「ヴィッツ」等計24車種のタカタ製エアバッグの不具合でリコール 03年7月31日～07年3月30日に製造した計135万7228台
助手席用(RAV4及びヴィッツの一部は運転者席用)エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- 日産自動車、「エクストレイル」等計9車種のタカタ製エアバッグの不具合でリコール 04年1月6日～08年3月7日に製造した計28万8397台
助手席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- ホンダ、「フィット」等計16車種のタカタ製エアバッグの不具合でリコール 04年1月7日～07年12月28日に製造した計171万8186台
助手席または運転席エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- ダイハツ工業、「ミラ」等計4車種のタカタ製エアバッグの不具合でリコール 03年5月27日～06年3月27日に製造した計25万9446台
運転席エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- ホンダ、「アコードハイブリッド」等計2車種の衝突軽減ブレーキシステムに不具合があるとしてリコール 13年5月22日～15年4月17日に生産した計1
衝突軽減ブレーキシステム装着車において、ミリ波レーダーによる障害物検知プログラムが不適切な為、路肩や中央分離帯等に防護柵があり、先行車との車間距離が離れた際に、受信したミリ波情報を稀に前方障害物と誤認識することがある。その為、衝突の可能性がないのに、マルチインフォメーションディスプレイに警告表示がされるとともに警告音を発し、予期せぬ急制動がかかる恐れがある。
- 極東開発、散水車の水ポンプ用エンジンに不具合があるとしてリコール 日野「デュトロ」「レンジャー」、トヨタ「ダイナ」、いすゞ「エルフ」「フォワードジャストン」「フォワード」、三菱ふそう「キャンター」「ファイター」「スーパーグレート」、UDトラックス「コンドル」で、08年7月30日～15年3月3日に製造した計126
散水車の水ポンプ用エンジンにおいて、カムの形状が不適切な為、エンジンを停止寸前の状態からアクセルを急激に最高回転状態まで作動させた際に、エンジンが逆回転することがある。その為、排気ガスが吸気側へ吐き出され、エアクリナ内のエレメント、エアクリナカバーを焼損する恐れがある。
- 日産自動車、「スカイライン」「GT-R」のポップアップエンジンフードに不具合があるとしてリコール 07年9月3日～08年4月14日に生産した6870台
ポップアップエンジンフードのアクチュエータにおいて、シリンダ締結部のシール構造が不適切な為、アクチュエータ内部に水が浸入するものがある。その為、そのまま使用を続けると、衝突時にエンジンフード後端が十分に上がらず、最悪の場合、歩行者頭部及び脚部保護の基準を満足しない恐れがある。
- いすゞ自動車、「フォワード」のバッテリーケーブルに不具合があるとしてリコール 07年4月27日～14年12月22日に生産した計9万8377台
中型トラックのバッテリーケーブルにおいて、中間分岐点の防水性が不足している為、分岐点内部に水が浸入し、分岐点内部の端子が腐食することがある。その為、そのまま使用を続けると、腐食が進行し、最悪の場合、端子が折損してバッテリー電源が断たれ、走行中エンジンが停止し再始動できなくなる恐れがある。
- BMWジャパン、「523d」等計6車種のホイールに不具合があるとしてリコール 13年6月27日～14年5月16日に生産した2032台
ホイールにおいて、「軽合金製ディスクホイールの技術基準」に規定されている当該技術基準に適合することを保証された製品に対して行う表示(ホイールサイズ)が不鮮明な為、保安基準の適合性が確認できない。
- 三菱自動車、「ランサー」「アイ」のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール 04年1月6日～12年2月20日に製造した10万165台
- 富士重工業、「インプレッサ」のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール 04年1月6日～07年4月24日に製造した9万1151台
助手席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認した。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- マツダ、「アテンザ」等計4車種・日産OEM「バネット」・三菱OEM「デリカ」のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール 04年3月1日～07年3月31日に製造した12万1511台
運転者席用(アテンザは助手席用も)エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、市場回収品を調査した結果、インフレーター容器に気密不良のものがあることを確認した。その為、長時間使用する過程で大気中の水分がインフレーター内部に侵入し、ガス発生剤が吸湿してエアバッグ展開時に正常に展開しない恐れがある。
- トヨタ自動車、レクサス「NX200t」、「アルファード」「ヴェルファイア」のアンチロックブレーキシステム(ABS)に不具合があるとしてリコール
ABSの油圧調整装置において、構成部品の形状が不適切な為、圧入組付け時に樹脂製の異物が発生することがある。その為、当該異物が油圧制御弁などに噛み込んでABS作動時に調圧が遅れて、走行安定性を損なう恐れがある。 14年11月11日～15年2月3日に生産した計10
- ホンダ、「エリシオン」「フィット」「フリード」等9車種、米国ホンダ等のリコールを合わせると計15車種のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール
特定の運転者席または助手席側SRSエアバッグのインフレーター(膨張装置)において、エアバッグ展開時にインフレーター内圧で容器が破損して構成部品が飛散し、乗員が負傷する恐れがある。 01年2月8日～13年9月23日に製造した計33万8728
- メルセデス・ベンツ日本、「C180」「C200」「C250」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 14年2月14日～同年12月8日に輸入した計4268台
燃料ポンプにおいて、燃料タンク内の燃料ポンプと配管の固定が不適切なものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、燃料ポンプと配管が外れ、エンジンに燃料を送送できず、最悪の場合、走行中にエンジンが停止し、再始動が不能となる恐れがある。